

広報

もり 中部の森林



私の森語り「木を眺める時間」
広葉樹コンシェルジュ 眺木展実行委員会代表 及川 幹

写真：「中部森林管理局庁舎のナナカマド」

特集

- ・令和6年能登半島地震への対応
- ・中部森林技術交流発表会を開催

各地からの便り

- ・こどもたちと森林をつなぐ冬の森林教室を実施 ほか

シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業

※令和6・7年度「国有林モニター」募集中！（今月16日まで）



林野庁中部森林管理局



2024/No.239

令和六年
能登半島地震への対応

令和六年一月一日に石川県能登地方で発生した能登半島地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されました方々にお見舞い申し上げます。

◆中部森林管理局

災害対策本部の設置

【企画調整課】

元日に発生した能登半島地震では、震源に近い富山県で震度五強を観測するなど、管内各地で強い揺れを観測したため、地震発生直後に中部森林管理局を本部長とする、「中部森林管理局災害対策本部」を設置し、情報の収集、職員の安否確認、富山県庁への連絡員派遣、管内における被災状況の確認、関係機関と連携しての被災地支援などを行ってきました。

引き続き、関係機関と連携し、状況の把握に努めるとともに必要な対策を実施していきます。

◆富山県と合同でのヘリコプターによる状況調査を実施

【治山課】

地震の発生を受け、震源に近い富山県の林地被害等を調査するため、一月五日に富山県森林政策課との合同で、ヘリコプターによる上空からの調査を実施しました。

県内のうち、特に震源地に近い西部の被害が心配されましたが、ヘリコプター調査の結果、今回の地震に伴う新たな林地被害は確認されませんでした。

しかしながら、未だ余震が続く状況の中、地震による地盤の緩みが起因となり、今後の雨や雪等により崩壊する恐れもある等、予断を許さない状況でもあるため、今後とも注視していく予定です。

当局では、引き続き、県・市町村と連携した迅速な緊急対応を実施すべく、山地災害発生時等に地上からの現地確認が不可能な場合において、上空から林地被害等の把握・情報収集等を行うなど、地域住民の方々の安全・安心に貢献してまいります。



富山空港での飛行前の打合せ



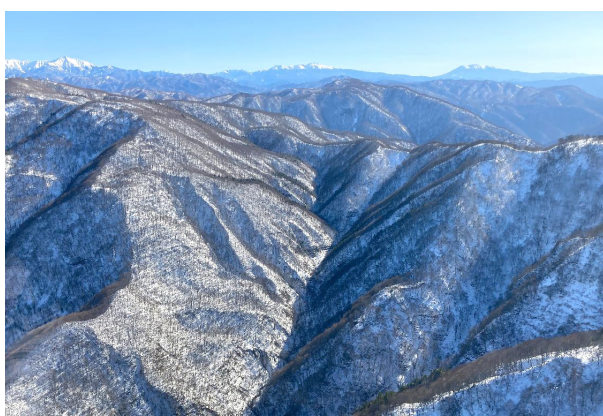
ヘリコプターへの搭乗



フライト中の機内の様子



2024.1.5 ヘリ調査写真 (富山県氷見市・民有林)



2024.1.5 ヘリ調査写真 (富山県富山市・国有林)

被災地支援

◆国宧林防災ボランティアとの連携による土木資材の提供

【企画調整課】

この度の地震で震度七を記録した石川県では、多くの山腹崩壊や土砂流出などの山地災害が発生したため、同県から林野庁を通じて近隣の森林管理局に対し、山地災害の拡大や土砂の流出を防止するための応急対策に必要なブルーシートや土のう袋等の土木資材の支援要請がありました。

当局では、速やかに管内の森林管理署等の資材を集約し、国宧林防災ボランティア制度に基づき協定を締結している(一社)長野林業土木協会及び(二社)名古屋林業土木協会の協力を得て、支援要請のあった二日後の一月六日に名古屋林業土木協会、その翌日には長野林業土木協会の会員のトラックに載せた資材を石川県庁へ届けました。今後も、被災地からの要請に迅速に対応し、中部森林管理局一丸となって可能な限りの支援に取り組んでまいります。

① 森林管理署等における資材の積み込み作業(一部紹介)



岐阜署 (岐阜県下呂市)



飛騨署 (岐阜県高山市)



富山署 (富山県富山市)



木曾署 (長野県木曾郡上松町)



中信署 (長野県松本市)



中部局 (長野県長野市)

② 資材の運搬状況



(長野林業土木協会)



(名古屋林業土木協会 2号車)



(名古屋林業土木協会 1号車)

活用された土木資材の事例

③ 石川県庁に搬入



令和6年1月7日



令和6年1月6日

【支援した資材】

ブルーシート 190枚、土のう袋 12,920枚、アンカーピン 263本、PPロープ 72巻、ビニールロープ 4巻、ナイロン結束バンド 6,000本、立入禁止テープ 30本、ガソリン携行缶 (20L) 1缶
※ブルーシート、土のう袋等については、複数のサイズを含みます。

中部森林技術交流

発表会を開催

【技術普及課】

一月二十六日、令和五年度中部森林技術交流発表会を開催しました。今年度は、運営の都合上、初めて全ての発表者及び審査委員がWEBで参加する方式としていたため、当日の一般公開はしませんでした。後日録画データをHPで閲覧できるようにしました。

発表は、民有林関係者によるものも合わせて「ふれあい・地域連携部門」に五課題、「森林保全部門」に五課題、「森林技術部門」に九課題の計十九課題となり、当日は二会場に分かれて進行了ました。このうち、審査の対象となる国有林関係の発表は十四課題あり、厳正なる審査の結果、以下の二課題が優秀賞に選定されました。

発表会の録画データは、三月二十九日まで動画配信しています。



受け流す柵で減災

～逆転の発想で早期に復旧～

(愛知森林管理事務所)

造林地に「獣害防護柵」を設置後、豪雨時に土砂や枝条などが集中して流出する箇所で損傷するケースが多発しており、修復しないとそこからシカが入り込むため、職員が応急的に修理を行います。それでもシカの侵入を許してしまうことがあります。

そこで、平成二十九年度頃から当所独自の取組として、被災しやすい箇所では「壊れない柵」ではなく、「簡単に直せる柵」へと発想を切り替えることとしました。

具体的には、大きな沢をまたぐ箇所では、仮に倒れてもこれに連なる柵に影響しないよう、独立させて設置する方法を新たに導入したところ、損傷箇所は最小限となり、早期の復旧が可能となりました。従来の資材のままコスト増につながらない「受け流す柵」は、維持管理の省力化に大きくつながりました。



豪雨時、受け流す柵のみが損壊する様子

真砂土地域に適した

シカ被害防止対策の試み

(東濃森林管理署)

真砂土地域では、シカ防護柵を設置しても土壌流出等により柵が損傷しやすく、シカの侵入による被害が頻発してきました。このため、植栽地全周に設置する「周囲柵」、崩れやすい箇所を避け複数の区域に分けて柵を設置する「ブロック・ディフェンス」、苗木毎に資材を設置する「単木保護」、「忌



真砂土地域の防護柵の損傷状況

避剤」散布のコストシミュレーションと各防護方法を実施した苗木の経過を検証しました。これにより、「単木保護」ではコストはかかるが成長量と防護力は高く、「周囲柵」ではコストは低いが防護力も低く、「ブロック・ディフェンス」では周囲柵より初期コストはかかるが、防護力が高いため長期的にみるとコストを抑えられる結果となりました。このことから、真砂土地域では現地の地形等を精査した上で、最適な防護方法を選択することが重要と考えます。

この他の国有林の発表課題

「森林技術部門」では、育成複層林における間伐後の光環境、更新補助作業が及ぼす効果の検証をはじめ、ヒノキコンテナ苗への超緩効性肥料の生育促進効果の取組、早生樹であるコウヨウザンの初期成長にかかる経過報告、植栽木の定着が困難な大規模崩壊地での獣害及び乾燥対策の取組、広葉樹大径材のモデル林育成の経過報告、山地災害箇所での緑化を目指した植生マット伏工の結果報告、UAV写真測量で取得した3D点群データにより継続的工事が計画的に組めるようになった成果など、多岐にわたる報告がなされました。

「ふれあい・地域連携部門」では、

公園の利用と保全を両立させてきた森林環境整備推進協力金の二十年の経緯と今後の課題をはじめとし、国有林が地域と密接に取り組んできた活動の報告、ブランド化から十年が経過した高木曾ひのきに対する認知度や評価の変化など、各署の取組の歴史と成果が感

じられる発表でした。

「森林保全部門」では、環境省と連携してシカ被害を抑える北アルプスの取組と、中央アルプスの山麓地域での継続的なシカ生息調査の報告がなされ、いずれも高山帯でのシカ被害を未然に防ぐ取組報告がなされました。

民有林・学生による発表課題

実証試験地の十一年間からみた

コンテナ苗の成績と課題

(岐阜県森林研究所)

確実性の高い再造林を目指して、ヒノキの実生コンテナ苗と裸苗を比較しながら、成長量等の検証を行い、得られた課題と対策について報告されました。

地域木材製品の海外需要開拓

(有限会社和建築設計事務所)

アメリカやベトナムでの二年間に及ぶ試験から得られた成果をもとに、付加価値の高い日本産木材製品の海外需要を増やすためには、その輸出先の国の法規制や規

則で定められている規格の性能試験を通して、これらを製品に表示していくことの必要性を発表されました。

民有林の管理委託事業における

入札・契約方法の手続きの検討

長野県佐久市春日財産区が

実施したプロポーザル方式の

入札と森林管理委託契約

(長野県佐久地域振興局)

佐久地域振興局では、地元の財産区の方々に森林経営委託の丁寧な勉強会や現地調査の支援を実施してきました。その結果、整備区域の範囲や委託事項を決めて林業事業者との委託契約を締結することができたため、公有林の管理を進める上での効果的な手法として紹介されました。

赤外線センサーカメラで撮影された

ニホンジカの行動分析

北八ヶ岳地域の国有林での成果

(長野県林業総合センター)

八ヶ岳の亜高山帯針葉樹林では、ニホンジカによる食害により

天然更新が困難となる可能性が高いと言われています。センサーカメラ調査の結果、林床の植生によりシカの出現率に差異があることが分かり、これを解析結果と併せて報告されました。

人里にツキノワグマを

滞在させないための

環境整備の効果検証

(信州大学大学院総合理工学研究科)

下層植生を除去する環境整備を行うことで、整備後にクマの利用頻度や滞在時間が著しく減少することを検証。整備によってクマの出没が夜間に偏ることから人間との遭遇リスクが減り、人身事故防止に有効な手段であることが報告されました。

関係者の皆様のご協力により、オンラインでの森林技術交流発表会を無事開催することができました。心より感謝申し上げます。



《各地からの便り》

こどもたちと森林をつなぐ
冬の森林教室を実施

【中信森林管理署】

十二月十二日、当署に松本市堀米保育園の園児十八名を迎えて森林教室を実施しました。同保育園との交流は十年以上続いており、職員にとっても待ち遠しい年中行事になっています。

最初に、署長からサンタクロースの由来や森林に誘う話をしたのち、職員がクマの足の実寸大パネルを使用し、クマの大きさを想像してもらいながら冬眠の説明をするなど、園児に興味を持ってもらえるよう工夫しました。

また、フジヤサンゴジュの冬芽を題材にした遊びでは、顔のようにも見える冬芽に、園児から「お猿さんみたい」とか「恐竜だ」などと歓声が上がリ、寒い時期にひっそりと姿を変えて春を待ちわびる冬芽を見て、樹木の生態や四季を感じてもらうことができました。

続いての輪投げゲームでは、目標として置いたシカの角に「蔓の輪」を何度も投げ入れ、苦戦しな

がらも成功させて大はしゃぎで喜ぶ園児たちの姿が印象的でした。

最後に、様々な色の松ぼっくりから好きなものを選び、丸太を輪切りしたコースターの上に接着し、煌びやかなビーズや雪に見立てた綿で飾りつける「世界にひとつだけのクリスマスツリー作り」に挑戦し、それぞれ完成した作品を眺め、クリスマスのイベントを楽しみにしている様子でした。

これからも、身近な視点から人と森林との関わりを捉えつつ、森林・林業の理解に繋がる取組を考えてまいります。

広葉樹採材検討会を開催

【南信森林管理署】

十二月十八日、伊那市手良沢山国有林において、生産請負事業者の監督員や関係職員などを対象とした広葉樹採材検討会を開催しました。採材とは、伐採した木を丸太に切り分けることです。

本検討会は、国内外において広葉樹資源の需要が高まっているなか、輸入材も高騰し、国産広葉樹は大変貴重な資源となっていることから、国有林で生産される広葉樹を適正に採材することで、住宅資材や家具などの一般用材としての活用が進むよう計画したもので、広葉樹の銘木市場である小林三之助商店各務原営業所長の三浦隆幸氏を講師に招き、供試木として用意したクリ・ホオノキ・コナラ・キハダ・アサダを前に、四グループに分かれて採材の検討を行いました。

各グループより検討結果を発表した後、三浦氏から「広葉樹の採材は必ずしも三辺や四辺などの長

尺材にする必要はなく、用途に応じた採材を行うことが重要であり、高く売るためには直材かつ大径で切ることが重要」との講評がありました。

参加者からは、「同業者でも採材に違いがあり、針葉樹と全く異なることも認識できた」「今まで採材に迷うことが多かったので参加して良かった」との感想が出されました。

当国有林では、伐造一貫作業システムにより人工林の皆伐を実施しており、その際に有用広葉樹も多く生産されることから、これまでも職員による採材の指導や木口割れの防止を施すことでの有利販売に努めてきました。本検討会の成果を各現場や事業者で活かし、広葉樹材の販売単価向上に繋がることを期待しています。



オリジナルのクリスマスツリー作り



採材の検討結果を発表の様子